

格中...
格中...
格中...



藥師積餅破

玄札興行

重頼

破餅を...
破餅を...
破餅を...

重箱...
重箱...
重箱...

離...
離...
離...

折...
折...
折...

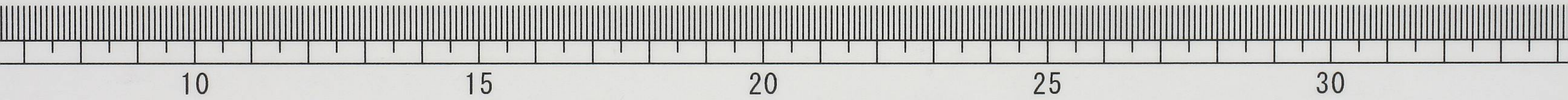
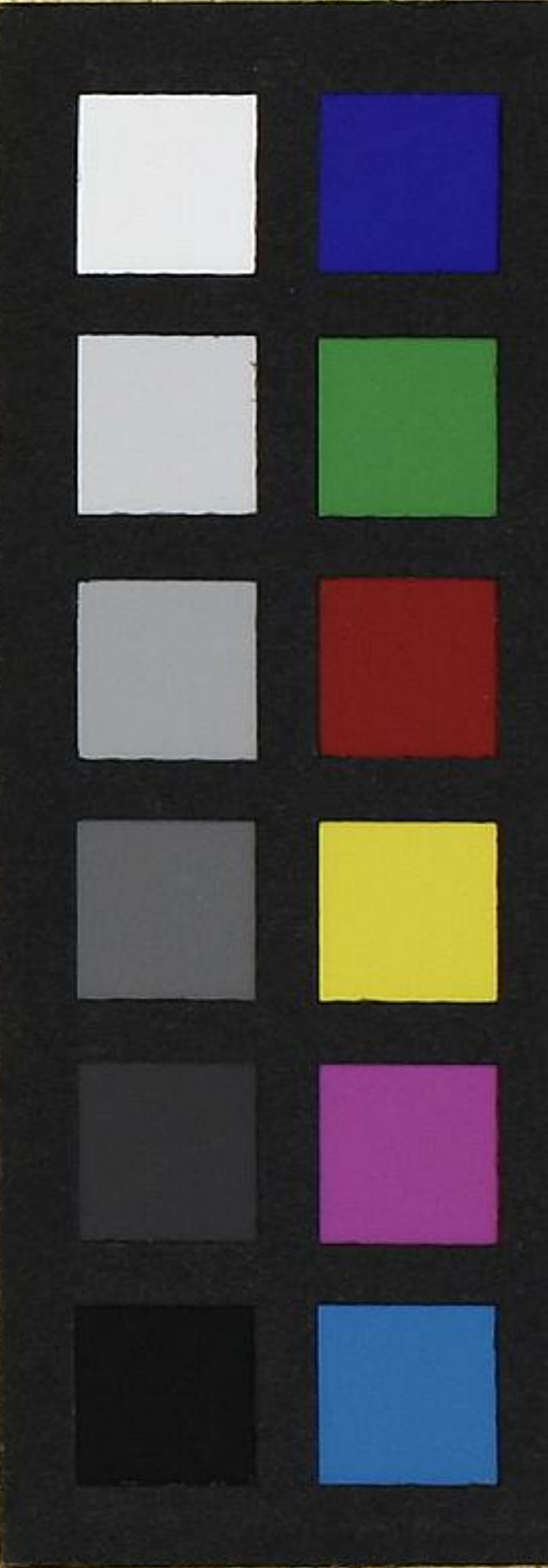
の...
の...
の...

中...
中...
中...

廣...
廣...
廣...

侍...
侍...
侍...

札...
札...
札...



藥師續餅破

玄札興行

重頼

破餅をまひひきしり後のは
重箱手箱の中なる花
離れしひするふきのきくて
移りて立れ桃乃折枝未足
しの方る足の痛やなぬるむ夏
重なるせし様乃中宿松
雨降るふきの月毛の好もの廣寧
ゆみの露をぬる侍頼
よみのきく草乃ちなるは寝て
わたりぬぬあり酔る 孟均
大浪をわたりゆく志を津島
吹くありハハハ岩吉屋の及
かき重なる難矣時雨よせぬ松
と社まきり余下僧のせえ
法回をえりてふ東海に
学ひし智恵しむるまじき此
草のみの拾りてふぬまじら

草のみの後かきまのぬすまじら
こゝの風さうふ萩よ扇よ札
まのうらふおもよまのしき撃季
人まうなむるまの月の書笺
わよふおもむかすつ穂こと摺
あなこゝろやむのしら松

谷のなる葉の音きんのは霞及
ゆさそあうくやそむ先陳敷
穂よまこころはよ成者むさ寧
わんつたまうく体む指人む
いのちあむおもむなまうら萩笺
後よまうくもらるの萩季
圖書堂よまうくは糸院のむ笺
冥途の道よまうく月の暈
葉あまうきまひおもむ萩の風
露よまうくはむ穂舞の萩札
萩まうくの一本の松よおるく季
穂よまうくはむも 獵船寧
よの中まうくはむも 萩よむ萩む萩
竹の格子まうくはむ萩の屋笺

山立をすらすの難波のうらま

よの中の書もまし 鴛もふふ 正正 靴靴
竹竹の格子子ををららくく 葎葎の屋 先先
山山立立ををすすらら 雜雜波波の山 掌掌
ああのさささききくく 御御子子の川 浴浴
海海のままま 花花のあのい 壺壺
一一はは 赤赤くく 白白くく ちちああ
の早振振ややみみくく ちちくく ぬぬの最
ささくく 一一 詩詩のあ ぬぬれれ
はは 雲雲のあのあのあのあ 先先
眼眼もも ちちのあのあ ちちのあ ちちのあ
ああの遠のいくく ちちのあのあ 先先
ささくく 一一 詩詩のあ ぬぬれれ
大大君君のあのあのあ 先先
月月のあのあのあ 先先
花花のあのあのあ 先先
府府のあのあのあ 先先
安安のあのあのあ 先先
心心のあのあのあ 先先
婦婦のあのあのあ 先先
るるのあのあのあ 先先
垂垂衣衣 深深めめ ちちのあのあ 先先
ちちのあのあのあ 先先

今わたりきくはるる
下まごも夜ひ夜へ上るる
一日律着とむる世木
月花の會あり世あひの合侍
日とちうぐくちうぐの道
及松札

ちうぐくちうぐの道とむる
ていひ世もあはれ一王
軍のちうぐくちうぐ
葛のちうぐくちうぐ
祿儀鬼よむ道は聲とむる
衣のちうぐくちうぐ
はよあをまゝる月の夕風
算用いふはるる市の棚
弁ひふはるる海のと布
大いふとむる文とむる
ぬいあをまゝる榎の内
綾綿織殿の精進日
神へまゝとむるの甲
松

ちうぐくちうぐの道とむる
ちうぐくちうぐの道とむる
朝雲のぬくちうぐくちうぐ
及松

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

正月十二日

政季。七

廣寧拾一 元徳七

石及八 寸松拾三

未得拾二 未見拾三

重頼拾二 寸松拾六

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

おのころのうらみおのころのうらみ
おのころのうらみおのころのうらみ

賦何琴雅譜

賦何琴雅譜

直

新善の源のくさ吾事のれ
日故法つやく花乃悪以正直
等のいせり書較の音をくつ体音
吉この序をば感せぬさる正章
人く乃三宰くもちのひ棚敷吹
蒲萄のあまのひちちり乃庭敷
月影もつひつやわら酒をり直
あしち控ひするお其会音

まんのりよなほりまぬる一私る章
わのれもさるおさるちうのく吹
ひやのよの上あひのます後敷
十二一節よなうらむのせ利直
お其作のた悠くもは殊篇よ音
ちるるの湯入あつまる章
面白く流す敷乃瀧川よ吹

不破くとも凡の吹入板をきく音

うげー 浪をかくいさつりあたるる 章

山坂をきく物まきあ越つるを 吹

雲の積る貴備 言 備 刺

浪の目か題目の跡ありて 直

海の真数やきりて二のまむ 音

雷電の音志るまらるる 音 目 章

たまあつぬる 親の古塚 吹

き代の大口ともきりて 吹

用言し 伝をさるるの 直

かあまきくくぬ物や 音 道 音

待しきりて 音 吹

ゆききなる 音 吹

作く 音 吹

合すむら 音 直

霧のさ下 音 直

村のよき 音 章

さいのちる 音 吹

いこのまぬ 音 直

あつらふ 音 直

ヤビカ 音 直

妻徹る 音 章

さび刀双のふるもいふもいふも
妻徹の夜衣の女のたのむも
夏まつても痛くもぬいす様吹
庭のうらりの作りし替は利靴
告音しれなる鞠もよもいむ
いつまのさあもあむも夕風音
うらぬのさひもあもき音の雲
よむものたのむも悲もまも吹
蠟燭のさるもよもやの秋靴
會津よもまも君はあもいも
崩れるも麓地の目もあもいも
笛しつても母をわらわもいも
何章

梅つきのたのむもいふも吹
よものたのむもいふも吹
川魚の鯉の料理もいふも吹
四のたのむもいふも吹
露の目もいふもいふも吹
なまけもいふもいふも吹
余のたのむもいふも吹
舞物もいふもいふも吹
災難もいふもいふも吹
道もいふもいふも吹

舞物ありつらば舞の神 直
災難を皆まくりひの祭りて音
道に清きものこすてさす比 章
信するから個はさるは家さし 吹
男くるひりる美りのわする 軌
ちのあまもしちるむ朝夕を 直
江ののちもく一管のさるの月 音
地苗にあらうて夜をたつ田 氣 章
耕作くちも草すつらよまむ 吹
大衆の鼻息の指さす 軌
若賢も秋のちのちの夜 陰 直
月ある書の新こけきこく 音
浪の電のりるなる 如 以 章
け用の法のさるのあま 吹
鞍まうりすたはばをのこ 軌
神のちも呼ぶあるあまの 食 直
のちるおあまあまのさ 音
待もへの其のちのちの 寺 軌
林の竹の買つるのち 直
草の数をちのちのち 章
露も濡るのちのちの 二 軌
接人の秋のちのちのち 音

草の敷をちる愛の二章
露も濕るものもきし山二五
杖人の秋の立用もちりて
袷もぬす風のこころさ
くすむる白ひの玉珠のさ
みきくく心霜の白菊章
那の字のる花のこゝ思木直
八瀬の山泉も思のこゝや
公の海もあはれむ花の春
あよひのほろくくふる茶の味

重頼 二拾二

正直 二拾

仲音 二拾

正音 拾九

頼吹 拾九

父又海より後述書

二重氏梅盛

父又海より後述書

大塚氏梅盛

月の雲は行き止む。打ちあひ

け敷くはよきとよのありしを今又よ
こひ給ひてこちを巻ひて今述書
の世に世に事志孝感懐を懐

なごく竹を枝もなごきね

祓くも心もさしこむちち

那山のものもさしこむちち

橋道は用ひちちちち

ぬきこころもさしこむちち

かへかへかへかへかへかへかへ
面へののめさぬの解

酒のみさしこむちち

又戒をさしこむちち

兵庫の者もさしこむちち

おまのちもさしこむちち

寝まのちもさしこむちち

枕のちもさしこむちち

癡まのころをまじりおのり
枕のまじりまじりの吉次所
おもひのちかきまじりま
風吹た興津まじりま
所をまじりまどき何艘
敵陣をまじりまどき軍
所代のまじりまどき出
大原も山後の山代まじり

まじりまどきまじりまどき
月お花をまじりまどき
山吹衣山吹衣のまじり

あまのまじりまどきまじり
陽をまじりまどきまじり
およそまじりまどきまじり
あまのまじりまどきまじり
七世まじりまどきまじり

まじりまどきまじりまどき
少倉のまじりまどきまじり
まじりまどきまじりまどき
まじりまどきまじりまどき
まじりまどきまじりまどき

今を麻の 我の妻をひひひ
いすす 泪の露よ 志くわよ
たぬく 月夜 和語

思ひぬくをたふふ 幸氣さ
行ある 敷のき 又 耻をのき

時のおつりて 二はる 中川
甲^ニも 雲に 白鷺の ちるる おり降る

尺^ニ々 ちるる 下よの 字 終
二ま 板をひき なき 文の 嬉し

雲の ちるる ちるる 敷
心^ニの ちるる ちるる 青と

ちるる の ちるる ちるる 探 網

うら^ニこ^ニちるる ちるる ちるる ちるる ちるる

村ま^ニて せす^ニなる^ニも せす^ニなる^ニも 待
東^ニの方^ニよ 日^ニま^ニり 月

長^ニ橋^ニの 両^ニ丸^ニの ば^ニの 飛^ニた^ニて
露^ニも^ニちる^ニる^ニの 便^ニを^ニた^ニす

流^ニさ^ニば^ニこ^ニま^ニる^ニに せ^ニや 時^ニの内
あ^ニけ^ニた^ニる^ニち^ニら^ニ海^ニ士^ニ人^ニの^ニあ^ニら
い^ニの 花^ニも^ニちる^ニる^ニの 葉^ニも^ニちる^ニる^ニは 五^ニに^ニさ
さ^ニる^ニ本^ニの 花^ニも^ニちる^ニる^ニは 五^ニに^ニさ
三

たのむるをの敷いあつて
漲たかりしあかりのまじりあつて
ものあかりとてこゝろの国より

下さるぬるそ花の一技

めのかさる社のくちあふあふ

春日あけのあけあけあけのあけあけ物

角地かくちの麻あし太山たいさんのあけ

おしりあけのあけあけのあけあけあけ

たのむるあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

中はくちをひよるまのさみよ
おまひの版をい新よらうかて

ひやも喰ぬる業柄の教

山猿の山ちも月もるるい出

この坊はいつち **み** **神**

せろも朝ふ世叟の祈務まがらて

いのもまのくらき **厨** **殿**

おましく自傳らの作り整

二月を板庭の庫の若くこ

かかよき古木の松も霜覆

鞠もいりる及 **ぬ**のさるまみ

的 非 **管** 非 **る** **ま** **く** **は** **ら** **め** **て**

誰 **は** **お** **ま** **ら** **よ** **に** **及** **せ** **し** **城** **下**

新 **れ** **も** **若** **し** **ら** **ら** **る** **山** **也**

のくらくたまき **た** **る** **の** **お** **お** **ひ**

うせしんちるま **し** **ら** **み** **と** **し** **ら** **は** **な** **も**

た **は** **な** **ひ** **よ** **せ** **は** **さ** **ま** **が** **ら** **ら** **ら**

出点七拾一 **の** **也** **十** **三**

ひてんする花やほこの徳を
せむらもろものきりありむる

出点七拾一の巻十三

七拾一もあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ

徳

徳はあつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ
あつたよあつたよあつたよ

あつたよあつたよあつたよ